

業種別業界景気動向調査結果

令和6年度 第2四半期(令和6年7月～9月期)調査

概要

1. 調査の目的 四半期ごとに調査を行い、短期的な景気動向を把握する。
2. 調査基準日 令和6年9月1日
3. 調査対象 当所管内の中小企業等より 135 社を抽出。
4. 回答企業数 125 社(回答率 93%)

業種別内訳	製造業	23 社	建設業	25 社
	卸売業	14 社	小売業	28 社
	サービス業	29 社	その他	6 社
規模別内訳	大企業	5 社	中小企業	115 社
	業界団体	5 団体		

* 期間表記について

- 「今 期」: 令和6年7月～9月
「前年同期」: 令和5年7月～9月
「前 期」: 令和6年4月～6月
「来 期」: 令和6年 10 月～12 月

* DI値(景気動向指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの各項目についての判断の状況を表す指数である。
ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

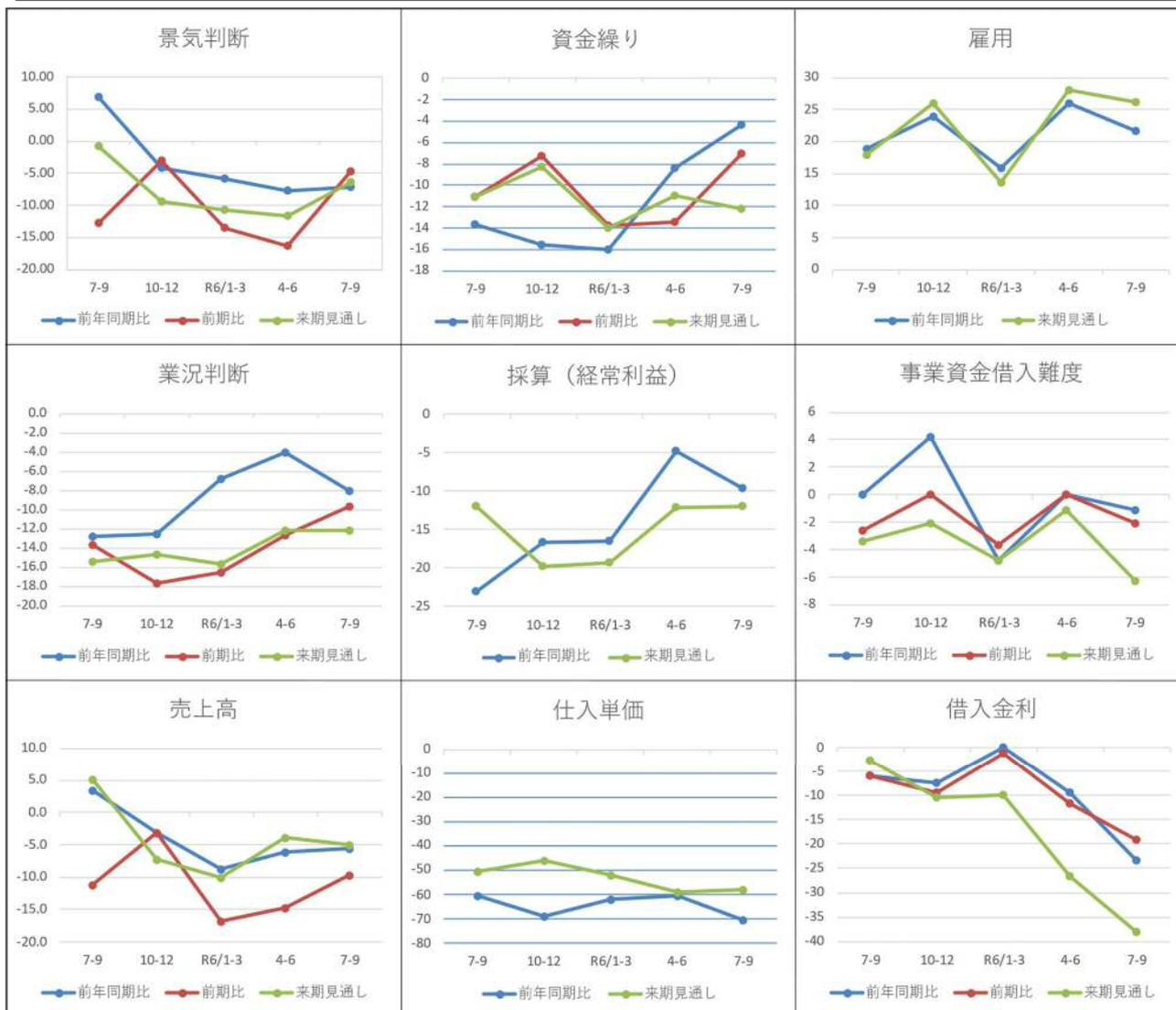
I. 定例調査

1. 全体概況＜今期(令和6年7月～9月)の全業種の概要＞

前年同期比で横ばい。前期比、来期見通しでは不安感緩和の兆しも。

景気判断 DI は前年同期比で▲7.2(前期比+0.6)。前期比、来期見通しでは、「物流の 2024 年問題」の影響が垣間見えた前回調査からは上向いた。一方、事業資金借入難易度 DI、借入金利 DI はマイナス幅拡大。特に来期見通しは厳しく、政策金利の引き上げに伴う金融機関からの借入コストの上昇や金融機関との調整難航への懸念が一定見受けられる結果となった。

項目	前年同期比DI			前期比DI			来期(先行)見通しDI		
	比較	DI	判断	比較	DI	判断	比較	DI	判断
景気判断	↑	▲7.2	マイナス幅縮小	↑	▲4.8	マイナス幅縮小	↑	▲6.5	マイナス幅縮小
業况判断	↓	▲8.1	マイナス幅拡大	↑	▲9.7	マイナス幅縮小	→	▲12.2	マイナス値の横ばい
売上高	↑	▲5.6	マイナス幅縮小	↑	▲9.6	マイナス幅縮小	↓	▲4.9	マイナス幅拡大
資金繰り	↑	▲4.3	マイナス幅縮小	↑	▲7.0	マイナス幅縮小	↓	▲12.2	マイナス幅拡大
採算(経常利益)	↓	▲9.6	マイナス幅拡大	-	-	-	↑	▲12.0	マイナス幅縮小
仕入単価	↓	▲70.3	マイナス幅拡大	-	-	-	↑	▲58.2	マイナス幅縮小
雇用	↓	21.7	プラス幅縮小	-	-	-	↓	26.1	プラス幅縮小
事業資金借入難易度	↓	▲1.1	マイナス値に転じる	↓	▲2.1	マイナス値に転じる	↓	▲6.3	マイナス幅拡大
借入金利	↓	▲23.4	マイナス幅拡大	↓	▲19.1	マイナス幅拡大	↓	▲38.1	マイナス幅拡大



当所管内業種別景況天気図(令和6年7月～9月期)

業種別	景気判断			業況判断			売上高			資金繰り			採算	
	R6 7月～9月期		R6 10月 ～ 12月 期	R6 7月～9月期	R6 10月 ～ 12月 期									
	前年 同月 比	前 期 比	見 通 し	前年 同月 比	見 通 し									
全業種														
製造業														
建設業														
卸売業														
小売業														
サービス業														
その他の業														

凡例					
	特に好転	好転	不変	悪化	特に悪化
DI値水準	>= +25.0	+24.9～+10.0	+9.9～-9.9	-10.0～-24.9	<= -25.0

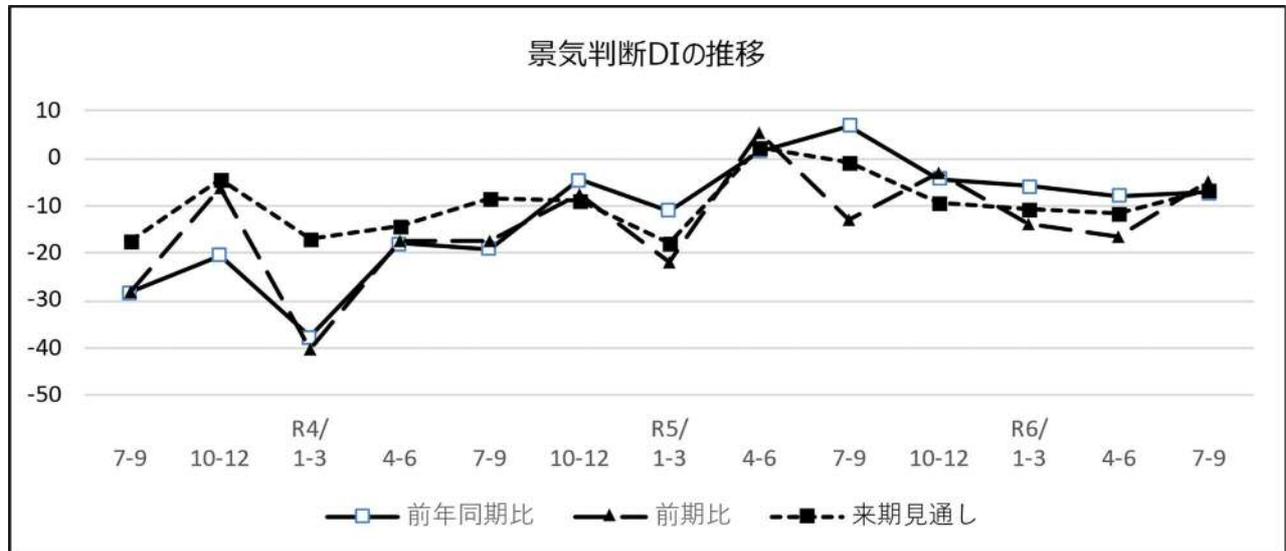
2. 各指標等

(1) 景気判断 景気判断DI(「上昇した企業割合」-「下降した企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲7.2ポイント。前回調査(▲7.8)から0.6ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比:DIは▲4.8ポイント。前回調査(▲16.3)から11.5ポイントマイナス幅が縮小した。

来期(先行き)見通し: DIは▲6.5ポイント。前回調査(▲11.7)から5.2ポイントマイナス幅が縮小した。

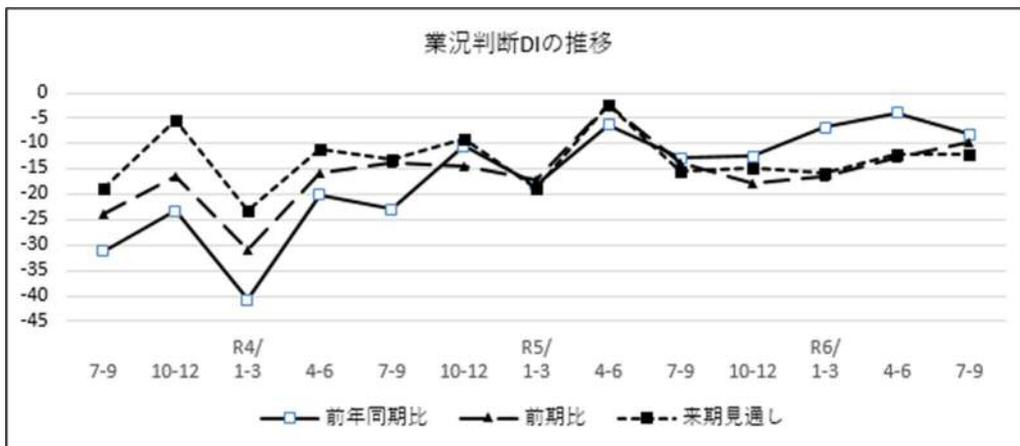


景気判断DIの推移

		7-9	10-12	R4/1-3	4-6	7-9	10-12	R5/1-3	4-6	7-9	10-12	R6/1-3	4-6	7-9
全業種	前年同期比	▲28.3	▲20.3	▲37.7	▲17.9	▲19.1	▲4.5	▲10.9	1.6	6.8	▲4.2	▲5.8	▲7.8	▲7.2
	前期比	▲28.3	▲6.0	▲40.0	▲17.2	▲17.6	▲7.5	▲21.9	5.4	▲12.8	▲3.1	▲13.6	▲16.3	▲4.8
	来期見通し	▲17.4	▲4.5	▲16.9	▲14.2	▲8.4	▲9.0	▲18.0	2.3	▲0.9	▲9.4	▲10.8	▲11.7	▲6.5
製造業	前年同期比	▲11.1	▲15.4	▲20.0	▲15.4	▲28.0	▲3.8	▲16.7	11.5	0.0	▲16.7	▲5.9	▲4.0	▲26.1
	前期比	▲11.1	11.5	▲32.0	▲26.9	▲20.0	▲7.7	▲29.2	▲7.7	▲12.0	5.6	▲17.6	▲12.0	▲8.7
	来期見通し	18.5	▲7.7	▲4.0	▲15.4	▲16.0	▲19.2	▲20.8	0.0	▲12.0	0.0	0.0	▲4.0	▲21.7
建設業	前年同期比	▲38.1	▲28.6	▲45.0	▲42.9	▲50.0	▲20.0	▲23.8	▲20.0	▲15.4	▲11.8	▲28.6	▲20.0	▲12.0
	前期比	▲42.9	▲23.8	▲35.0	▲28.6	▲35.0	▲15.0	▲23.8	▲5.0	▲46.2	5.9	▲21.4	▲40.0	▲4.0
	来期見通し	▲33.3	▲28.6	▲35.0	▲42.9	▲15.0	▲30.0	▲33.3	▲15.0	▲7.7	▲17.6	▲21.4	▲30.0	▲12.0
卸売業	前年同期比	▲35.7	▲15.4	▲28.6	0.0	▲23.1	0.0	▲16.7	▲27.3	▲18.2	▲12.5	0.0	14.3	▲7.1
	前期比	▲28.6	0.0	▲21.4	▲7.1	▲15.4	▲23.1	▲25.0	36.4	▲9.1	▲25.0	▲10.0	▲7.1	▲14.3
	来期見通し	▲35.7	15.4	▲14.3	▲7.1	▲23.1	7.7	▲16.7	9.1	▲9.1	▲25.0	10.0	▲14.3	▲23.1
小売業	前年同期比	▲39.5	▲32.4	▲48.6	▲22.2	▲5.4	2.7	0.0	0.0	12.9	▲21.7	▲4.0	▲25.0	0.0
	前期比	▲39.5	▲21.6	▲57.1	▲22.2	▲8.1	→	▲8.1	▲2.8	▲8.8	▲12.9	▲13.0	▲15.6	0.0
	来期見通し	▲31.6	▲2.7	▲22.9	▲13.9	▲5.4	▲8.1	▲16.7	▲5.9	3.2	▲4.3	▲12.0	▲18.8	0.0
サービス業	前年同期比	▲22.2	▲7.7	▲32.0	▲14.8	0.0	▲7.7	→	▲7.7	25.9	21.4	23.8	▲3.6	0.0
	前期比	▲22.2	7.7	▲36.0	▲7.4	▲19.2	7.7	▲38.5	37.0	3.6	0.0	▲14.3	▲15.6	0.0
	来期見通し	▲14.8	7.7	0.0	→	0.0	3.8	7.7	0.0	22.2	14.3	→	▲14.3	▲6.5
その他の業	前年同期比	▲18.2	▲10.0	▲54.5	10.0	▲30.0	0.0	▲11.1	▲9.1	22.2	→	22.2	20.0	16.7
	前期比	▲18.2	0.0	▲45.5	10.0	▲10.0	▲9.1	▲22.2	▲9.1	▲22.2	0.0	→	0.0	16.7
	来期見通し	▲9.1	▲10.0	▲36.4	0.0	→	0.0	▲9.1	▲33.3	9.1	▲11.1	0.0	▲40.0	33.3

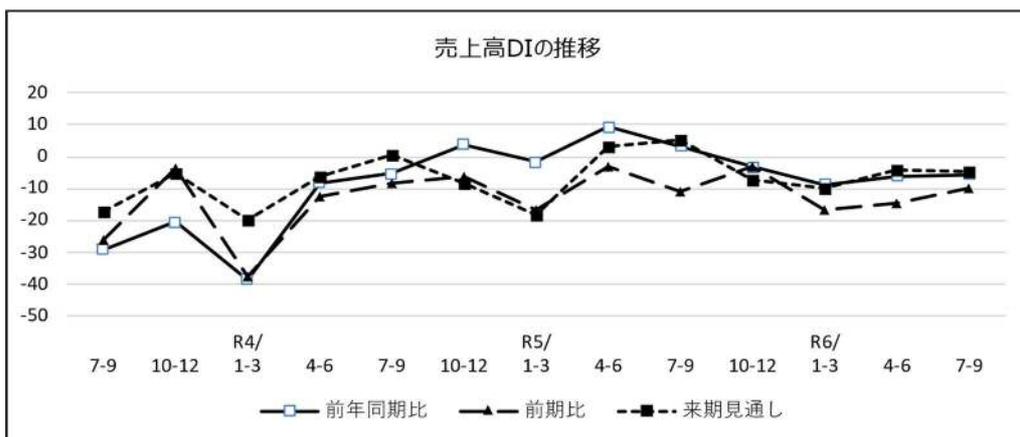
(2) 業況判断 業況判断DI(「好転した企業割合」-「悪化した企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲8.1ポイント。前回調査(▲4.0)から4.1ポイントマイナス幅が拡大した。
 前期比:DIは▲9.7ポイント。前回調査(▲12.7)から3.0ポイントマイナス幅が縮小した。
 来期(先行き)見通し:DIは▲12.2ポイント。前回調査(▲12.2)からプラスの横ばいとなった。



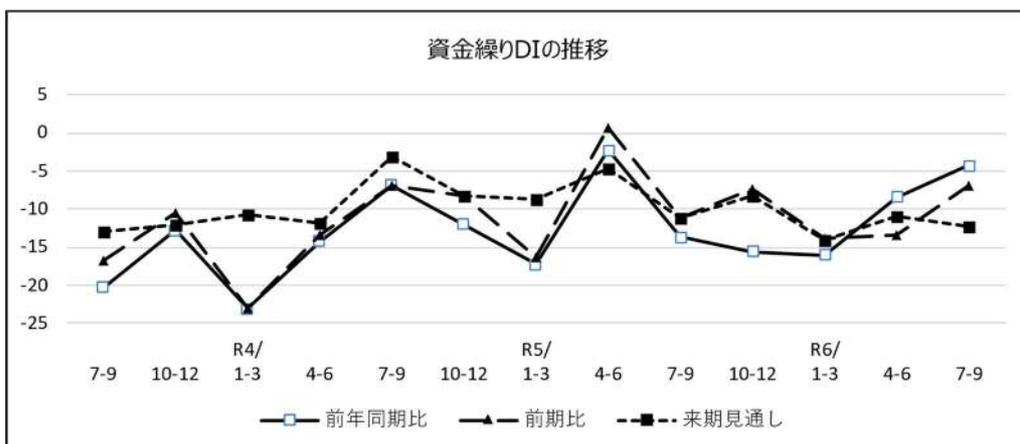
(3) 売上高[受注額] 売上高DI(「増加した企業割合」-「減少した企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲5.6ポイント。前回調査(▲6.2)から0.6ポイントマイナス幅が縮小した。
 前期比:DIは▲9.6ポイント。前回調査(▲14.7)から5.1ポイントマイナス幅が縮小した。
 来期(先行き)見通し:DIは▲4.9ポイント。前回調査(▲3.9)から1.0ポイントマイナス幅が拡大した。



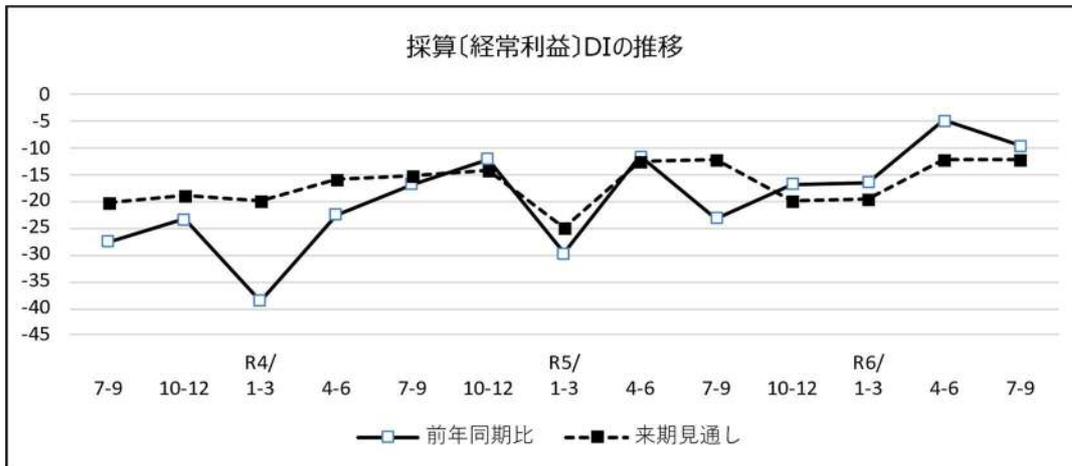
(4) 資金繰り 資金繰りDI(「好転した企業割合」-「悪化した企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲4.3ポイント。前回調査(▲8.4)から4.1ポイントマイナス幅が縮小した。
 前期比:DIは▲7.0ポイント。前回調査(▲13.4)から6.4ポイントマイナス幅が縮小した。
 来期(先行き)見通し:DIは▲12.2ポイント。前回調査(▲11.0)から1.2ポイントマイナス幅が拡大した。



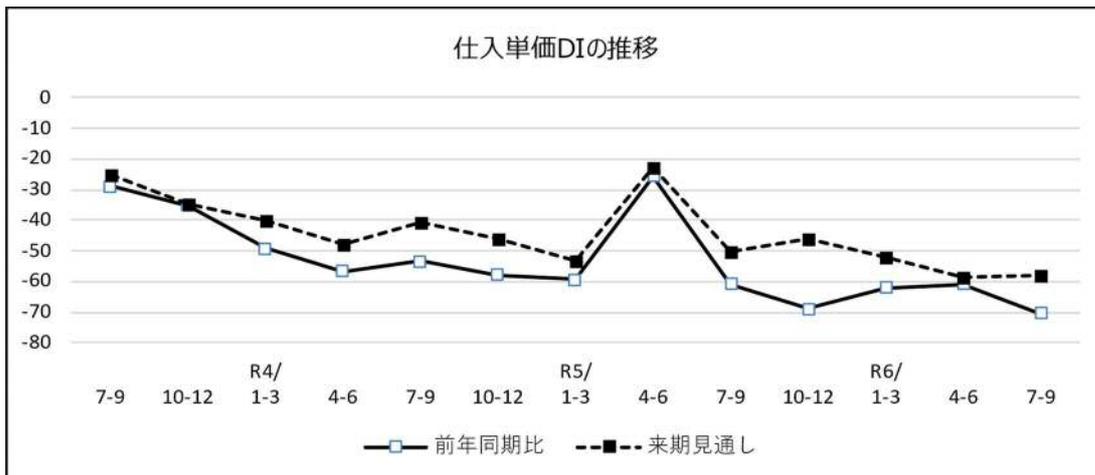
(5) 採算〔経常利益〕 採算DI(「好転した企業割合」-「悪化した企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲9.6ポイント。前回調査(▲4.8)から4.8ポイントマイナス幅が拡大した。
 来期(先行き)見通し:DIは▲12.0ポイント。前回調査(▲12.1)から0.1ポイントマイナス幅が縮小した。



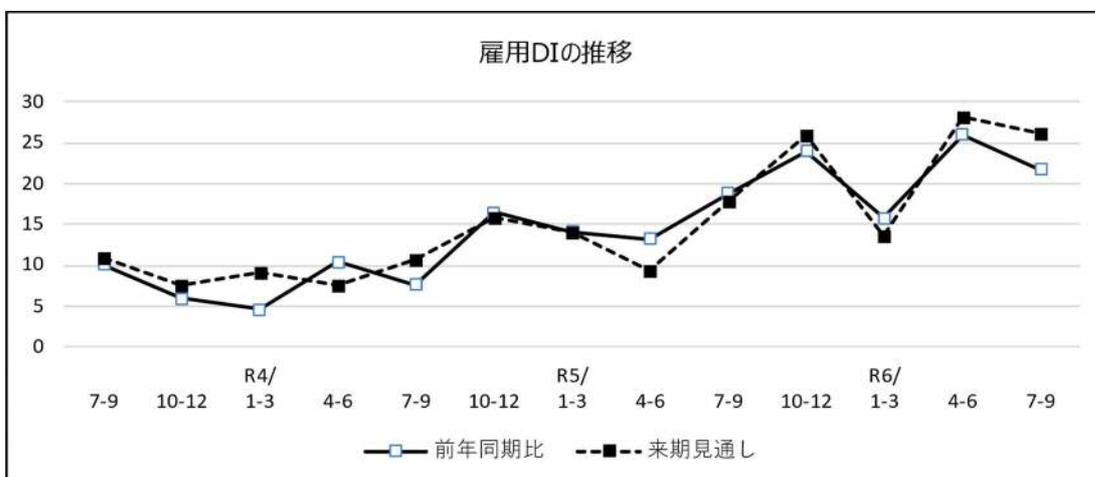
(6) 仕入単価 仕入単価DI(「下落した企業割合」-「上昇した企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲70.3ポイント。前回調査(▲60.7)から9.6ポイントマイナス幅が拡大した。
 来期(先行き)見通し:DIは▲58.2ポイント。前回調査(▲58.8)から0.6ポイントマイナス幅が縮小した。



(7) 雇用 雇用DI(「不足気味の企業割合」-「過剰気味の企業割合」の指数)

前年同期比:DIは21.7ポイント。前回調査(26.0)から4.3ポイントプラス幅が縮小した。
 来期(先行き)見通し:DIは26.1ポイント。前回調査(28.1)から2.0ポイントプラス幅が縮小した。

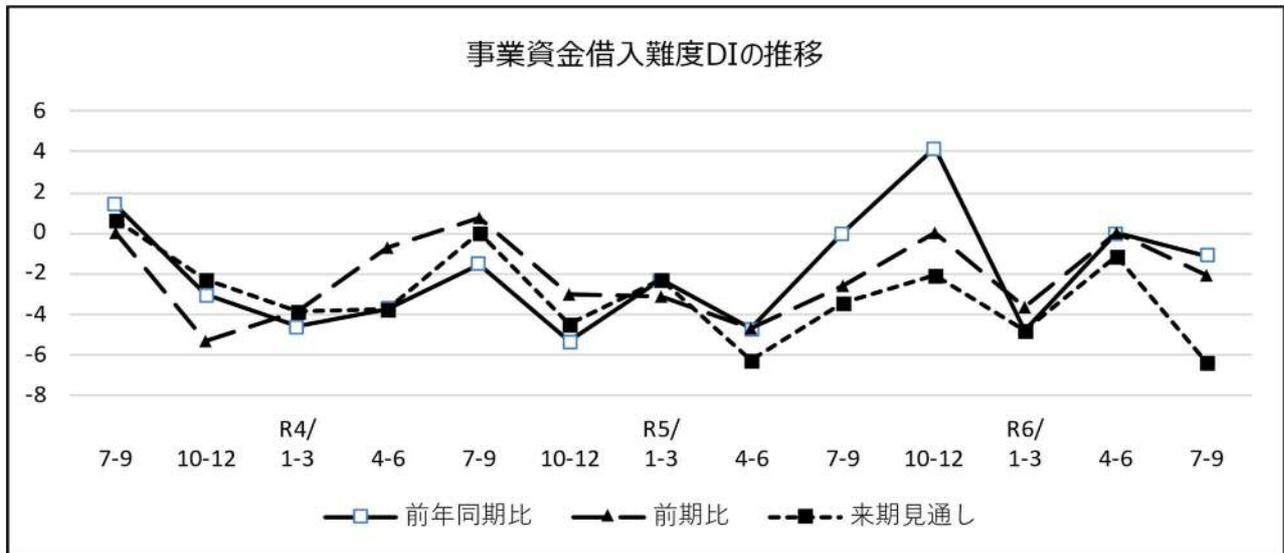


(8) 事業資金借入難度 事業資金借入難度DI(「ゆるやかな企業割合」-「きびしい企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲1.1ポイント。前回調査(0.0)から1.1ポイント悪化し、マイナス値に転じた。

前期比:DIは▲2.1ポイント。前回調査(0.0)から2.1ポイント悪化し、マイナス値に転じた。

来期(先行き)見通し:DIは▲6.3ポイント。前回調査(▲1.1)から5.2ポイントマイナス幅が拡大した。

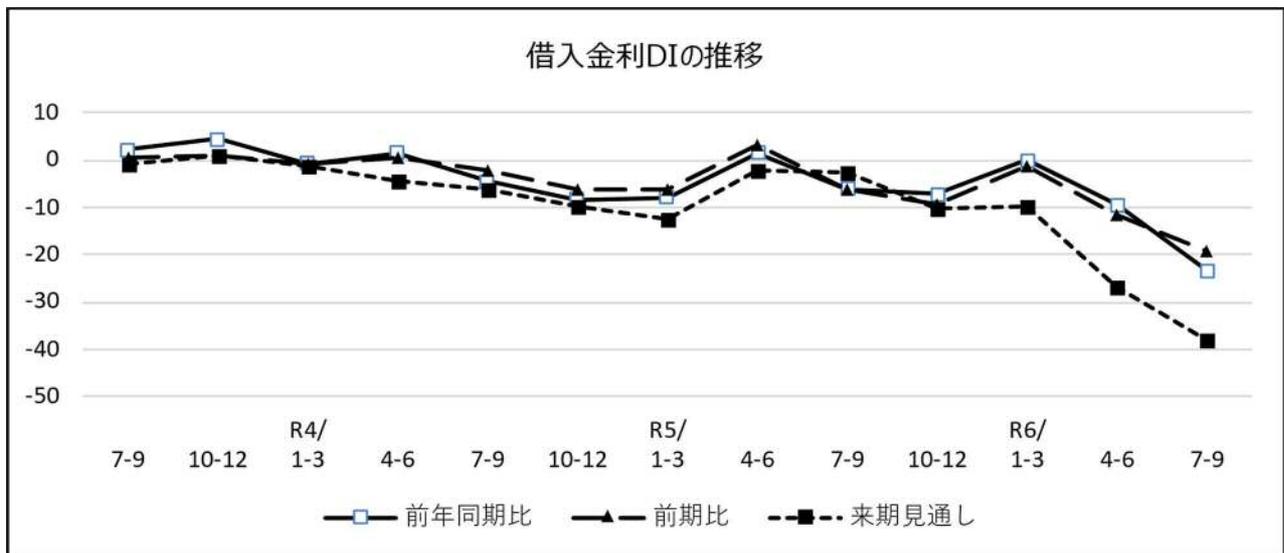


(9) 借入金利 借入金利DI(「下落した企業割合」-「上昇した企業割合」の指数)

前年同期比:DIは▲23.4ポイント。前回調査(▲9.5)から13.9ポイントマイナス幅が拡大した。

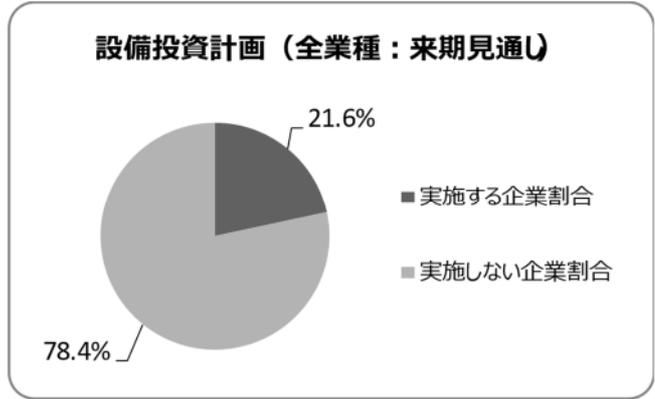
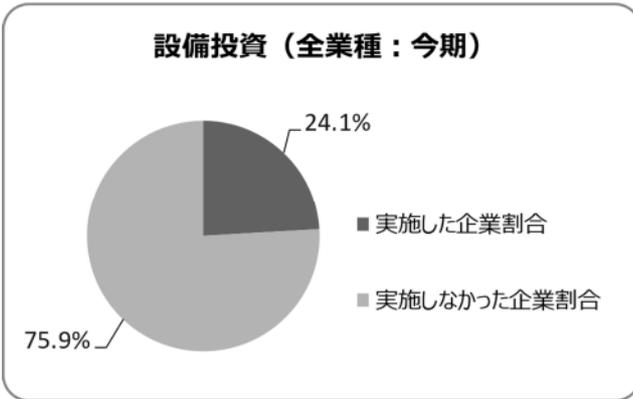
前期比:DIは▲19.1ポイント。前回調査(▲11.6)から7.5ポイントマイナス幅が拡大した。

来期(先行き)見通し:DIは▲38.1ポイント。前回調査(▲26.6)から11.5ポイントマイナス幅が拡大した。



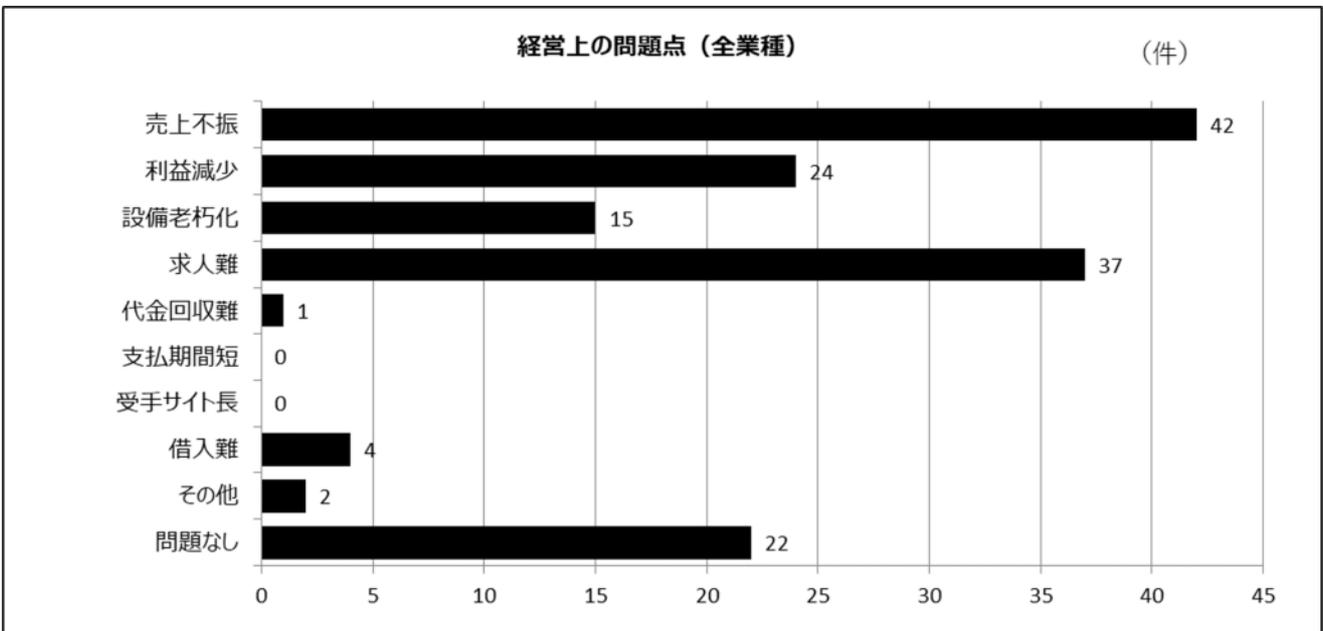
(10) 設備投資

今期設備投資を実施したと回答した企業は 24.1%となり、前回調査(26.7%)より 2.6%減少した。また、来期設備投資を計画している企業は、21.6%となり、前回調査(29.2%)より 7.6%減少した。



(11) 経営上の問題点

経営上の問題点として、最も多く挙げられているのは「売上不振」が 42 件、次いで「求人難」が 37 件となっている。



(12) 産業別の主な動き

判定	↑	↗	→	↘	↓
前期との差	10.0以上	9.9~1.1	1.0~-1.0	-1.1~-9.9	-10.0以上
	改善			悪化	

【製造業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↓	↘	↘	↗	↓	↓	↗	→	↓

- ・ 人手不足の解消の1つとして、全国的な職業訓練校や学校への求人を実施してる。(家具製造業)
- ・ 円安に伴うコスト増加。(輸送用機械器具製造業)
- ・ 物流 2024 年問題については、運送費上昇以外に大きな問題は発生していない。(生産用機械器具製造業)

【建設業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↗	↘	↘	↘	↘	↑	↑	↓	↓

- ・ 建設業の残業規制適用が負担である。元請や上位業者の運営が変わらなければ、下請業者は法遵守が困難である。(設備工事業)
- ・ 仕入価格上昇分の価格転嫁については、入札案件を落札(受注)しようとする、どうしても、入札金額を低くしなければならず、仕入価格上昇分を十分に反映することが難しい(利益の圧迫にも繋がっている)。また、案件数が減少傾向にあり、建設業者間の競争が激しくなり、売上高の確保、利益の確保、今後の受注予測が難しいままである。新卒・中途採用ともに求人票を出しているが、応募はほとんど無い状況。建設業 2024 年問題に対応中。(総合工事業)
- ・ 人手不足は長年の課題。少子化傾向の加速が更に人手不足を助長する負のスパイラルが永遠に続くのかと心配。(設備工事業)

【卸売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↓	↓	↘	→	↓	↓	→	→	↗

- ・ 人手不足。(金物材料等卸売業)
- ・ 物価高における消費の冷え込みが多々売り上げに影響している。(その他の卸売業)

【小売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↗	↑	↗	↗	↘	↗	↘	↓

- ・ すぐ隣に日本一の洋菓子チェーンフランチャイズ店が出来る事。(飲食料点小売業)
- ・ 当組合が経営する駐車場では、コロナの影響も収まり、まずまずの実績だが、今後の周辺開発影響で不明である。(その他の小売業)
- ・ エネルギー価格の上昇が続いており、先行きが不透明。円安による原材料の高騰⇒商品値上げ。(各種商品小売業)
- ・ 完成品を輸入販売している業界にとっては、円安の影響が増幅され、店頭販売価格がコロナ以前の 200%を超えている。政府の経済対策ではアベノミクスの総括がなされていない状況では、先行き見通しづらい。(その他の小売業)
- ・ 物流問題の悪影響は今の所出ていない。早め早めの発注を心掛けている。(飲食料点小売業)
- ・ 円安の影響で、海外からのお客様(インバウンド)が戻ってきている。(飲食料点小売業)
- ・ 運賃はもとより、お客様の要望に沿った配送ができるかが心配である。(織物・衣服・身の回り品小売業)
- ・ 労働者スキルの低下 労働意欲の低下。(織物・衣服・身の回り品小売業)

【サービス業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↑	↘	→	↑	↗	↓	↘	↑	↘

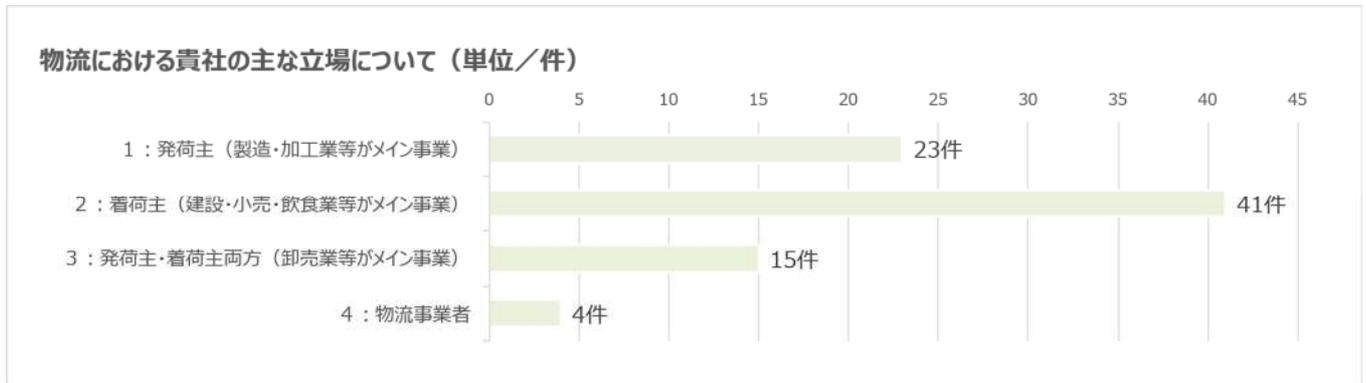
- ・ 人口の減少が一番。(理容業)
- ・ 需要はあるが対応できる人材の育成、確保ができなければ機会損失になってしまうため人材が最優先課題である。(情報サービス業)
- ・ ドライバーの拘束時間、時間外労働を減らすため、配送の受注を減らしている。(道路貨物運送業)
- ・ 自らが物流事業者で、仕入れ業者および下請事業者費用上昇分を価格転嫁できていない。(道路貨物運送業)
- ・ 訪問サービスのため、ガソリン代が高くなっていることは大きく影響はしている。(技術サービス業)

【その他の業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入単価	雇用	借入難度	借入金利
↓	↓	↓	↓	↓	↓	→	→	→

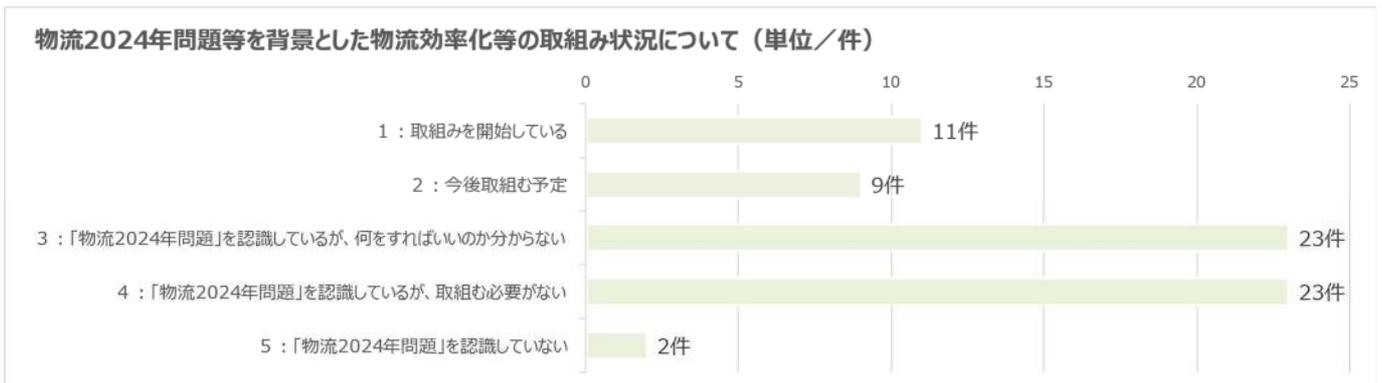
II. 付帯調査

1. 物流における貴社の主な立場(発荷主:主に荷物を送る側/着荷主:主に荷物を受け取る側/発・着荷主:卸売業等)について



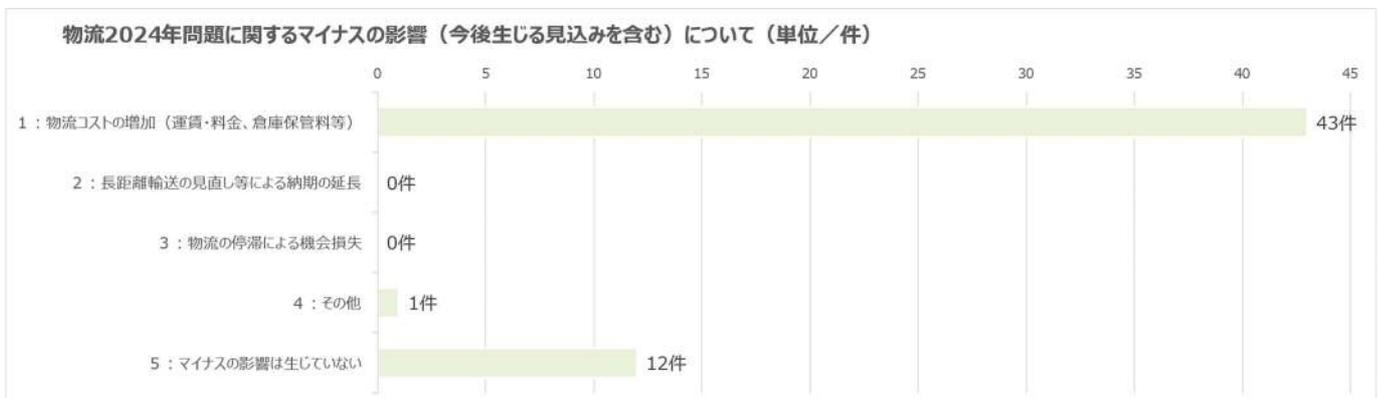
2. 物流 2024 年問題等を背景とした物流効率化等の取組み状況(物流効率化の取組例:パレットの導入、荷下し場所の拡張等)について

『「物流 2024 年問題」を認識しているが、何をすればいいのかわからない』『「物流 2024 年問題」を認識しているが、取り組む必要がない』という回答が 68%(46/68 件)と大半を占めており、問題認識はあるものの対策にはつながっていないと思われる。



3. 物流 2024 年問題に関するマイナスの影響(今後生じる見込みを含む)について

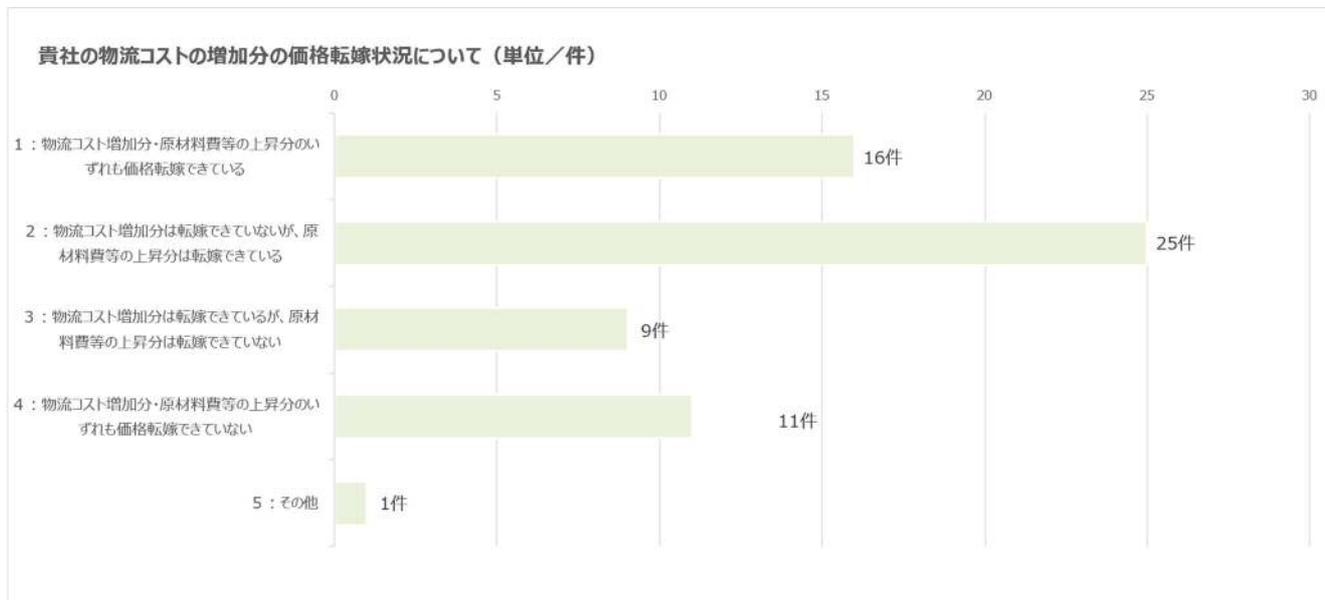
物流 2024 年問題によるマイナスの影響があると回答した企業は、79%(44/56 件)と8割近くあり、うち、具体的な内容として「物流コストの増加」が 98%(43/44 件)であった。



4. 物流コストの増加分の価格転嫁状況について

物流コストの増加分を価格に転嫁できている企業は、26% (16/62 件)と、3割弱にとどまり、原材料価格等増加分の転嫁実施率 40% (25/62 件)と比べて低い水準となった。原材料価格等の転嫁は一定程度進んでいるものの、物流コストの価格転嫁については、まだ難航していることがうかがえる。

その他の1件は、自らが物流事業者、仕入れ業者および下請事業者費用上昇分を価格転嫁出来ていないというコメントあった。



5. 物流効率化について、「1:取組みを開始している」、「2:今後取組む予定」と回答された方で、貴社において取組んでいるまたは今後取組む予定の内容について

物流効率化の取組みの具体的な内容としては、「物流コストの適切な価格転嫁の実施」が 60% (30/50 件)と最も高くなっており、次いで、「発注頻度の見直し等による配送回数の削減」16% (8/50 件)、「協力物流事業者数の拡大」8% (4/50 件)となっている。

